

光好ひろゆきが掲げる 5つの政策+イチ!



1 魅力ある鳥飼のまちづくり

鳥飼地域は、人口減少が顕著であり、今後、少子高齢化がより一層加速し、人口が半減すると見込まれています。そんな中、自身の主要施策として、「鳥飼地域の活性化・魅力化」を掲げ、具体策を繰り返し提案し、粘り強く訴え続けて参りました。その結果、専任チームとして、「鳥飼まちづくりプロジェクトチーム」が新たに設置される運びとなりました。

何よりも、まちづくりは地域住民の方々が主役にならなければなりません。魅力ある鳥飼のまちづくりは、まだまだこれからですが、引き続き、この鳥飼地域で生活している方々や、働いている方々の代表として、全力で、鳥飼地域の活性化・魅力化に取り組んで参ります。

2 災害に強いまちづくり

災害に強いまちの実現には、適切な災害リスク評価を行った上で、その評価に基づく適切なハード整備と、ハード整備を踏まえたソフト対策を計画・実行し、災害に備えることが重要であると考えています。本市は、200年に一度の豪雨を想定し、ハザードマップで避難の必要性を示していますが、そこに住む人々が災害リスクを正しく認識し、日頃からリスクを共有することで災害に対応した意識が根付いて行くものと考えます。

災害に強いまちづくりを市の最重要施策と位置付け、真に災害に強いまちづくりを目指して、行政と力を合わせ、取り組んで参ります。

3 道路交通環境の改善

本市には、大阪高槻線が地域の骨格となる幹線道路として存在します。しかし、歩道整備も中途半端な状態であり、一津屋交差点を初め、慢性的な渋滞が課題となっています。鳥飼仁和寺大橋が、2027年2月に無料化されると、鳥飼大橋や淀川新橋から車が流れ、大阪高槻線の交通量が益々増加することが懸念されます。市民の方々が安心して暮らせるよう、道路交通の「あるべき姿」を描き、具現化して行かなければなりません。これからも、粘り強く、一歩踏み込んだ取り組みを要望し、道路交通環境の改善に精力的に取り組んで参ります。

4 地域産業の活性化

本市は、4千を超える事業所が存在し、その多くを中小企業が占めています。この産業の集積は、本市の大きな強みであり、活かさなければなりません。私は、本市が「摂津ブランド」を築き上げることにより、外部の需要をもっと呼び込み、中小企業にとっての遣り甲斐と、本市での存在意義に繋げるべきと考えます。

中小企業の多くは、高い技術は持っているものの、収益に結び付いていないケースも見受けられます。行政が、もっと能動的に企業に関わり、本質的なビジネスマッチングに繋げるべきと考えます。地域の資源を活用し、本市の新しい価値を更に見出し、地域産業の発展に取り組んで参ります。

5 健康づくり

人生100年時代です。私は、健康づくりを更に発展させる為には、3つのポイントがあると考えます。「動機付け」、「ICTの活用」、「課題の見える化」です。健康づくりを進める上で重要なことは、「無関心層」の方々に、如何にして取り組んでもらうかということです。まずは、この「動機付け」が重要と考えます。

また、国立循環器病研究センターや関係機関との連携を図り、ICTを活用することで、様々な分析が可能となります。更に、分析結果や検証結果より「課題」を目に見える形で明らかにすることで、効果的な手段を検討することが可能になると考えます。

先進的且つ効果的な健康づくりの具現化に向け、行政と力を合わせ、取り組んで参ります。

魅力ある
鳥飼の
まちづくり

地域産業の
活性化

災害に
強い
まち
づくり

+イチ!

健康
づくり

道路交通
環境の改善

+イチ!

地域課題の解決

市民や地域の課題解決へ取り組みます。市内施設等の現状や、他市の先進的な事例や特色ある取り組みなどを現地調査し、その内容を、本会議や委員会等の議論に活かし、市議会の活動や市政の推進に役立てて行きます。また、地域の状況を把握し、市民の方々からの困りごとや疑問などの声を丁寧に伺い、その思いに寄り添って、解決方法や相談窓口を考え、課題解決に向け、精力的に取り組めます。

光好ひろゆきは、市民の方々と目線を合わせ、多くの実績を残すことができました

- 鳥飼まちづくりプロジェクトチームが新たに設置され、鳥飼地域の将来像を描く、鳥飼まちづくりブランドデザイン策定への取り組みを軌道に乗せることができました。
- 淀川水系の防災拠点となる「淀川河川防災ステーション」を鳥飼地域に誘致することを具体的に進めることができました。
- 青少年運動広場における建物及びグラウンドの改修と照明のLED化により、使い易く、また、大幅な省エネを実現することができました。
- 葬儀会館摂津メモリアルホールメイン駐車場のアスファルト化と、防犯灯及び防犯カメラの設置により安全性を向上させることができました。

- 国民健康保険加入者(40~74歳)における人間ドック費用の一部助成を上限額:26,000円に増額することができました。
- 鳥飼和道6号線の地盤改良及び歩行者用グリーンロード設置などの視覚効果による車両のスピード抑制策と安全対策を実施しました。
- 摂津ブランド認定制度の「摂津すぐれもん」において、従来の一般消費者向け製品だけではなく、企業間で取引されている製品も摂津ブランドに認定することができました。
- 「歩くこと」を中心とした健康づくりに、気軽に取り組むことが出来る「健幸マイレージ」において、インセンティブを更に充実させることが出来ました。

※上記の実績は、理事者や関係機関に粘り強く、また、繰り返し要望し、実現したものです。